

2019年（平成31年・令和元年）の日本の年平均気温[†] （速報）

2019年の日本の年平均気温偏差（1981～2010年の30年平均値からの偏差）は+0.92℃（1～11月の期間から算出した速報値）で、統計を開始した1898年以降で最も高い値となる見込みです（第2位は2016年の+0.88℃）。日本の年平均気温は、長期的には100年あたり1.24℃の割合で上昇しており、特に1990年代以降、高温となる年が多くなっています。

近年、高温となる年が頻出している要因としては、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響が考えられます。また、エルニーニョ現象やラニーニャ現象などの数年程度から数十年程度の時間規模で繰り返される自然変動の影響も受けて変動していると考えられます。

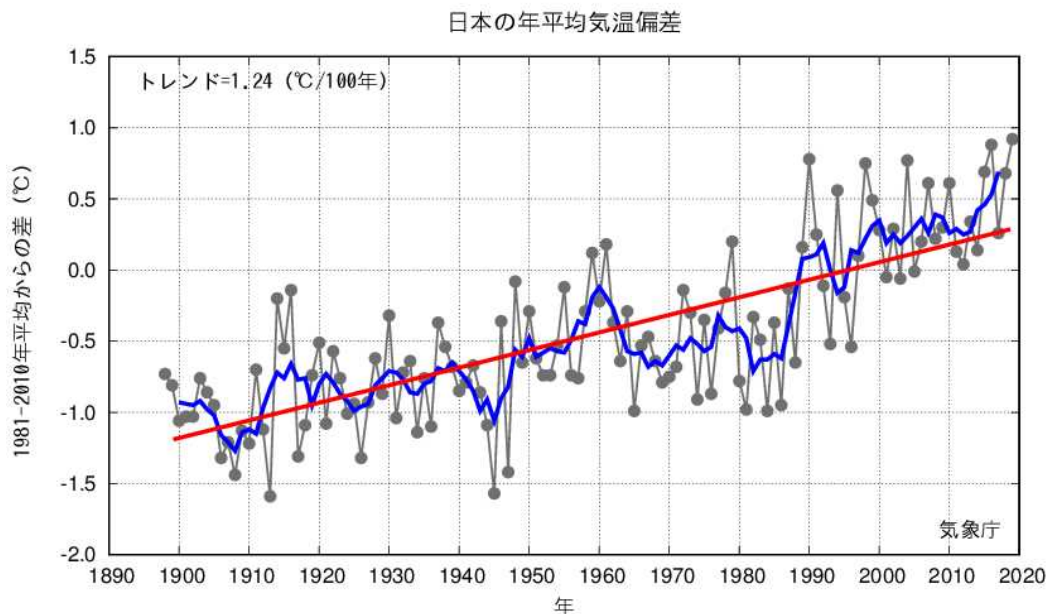


図 日本の年平均気温偏差の経年変化（1898～2019年、速報）

黒線は各年の基準値からの偏差、青線は偏差の5年移動平均値、赤線は長期変化傾向（この期間の平均的な変化傾向）を示す。基準値は1981～2010年の30年平均値。

[†] 日本の平均気温の偏差の算出にあたっては、都市化による影響が比較的小さく、長期間の観測が行われている地点から、地域的に偏りなく分布するように選定した15地点（※）の気象台等の観測値を採用している。

※網走、根室、寿都（すつつ）、山形、石巻、伏木、飯田、銚子、境、浜田、彦根、宮崎、多度津、名瀬、石垣島

参考：日本の年平均気温の順位（上位 10 位まで、速報）

日本		
順位	年	気温偏差 (°C)
1	2019	+0.92 *
2	2016	+0.88
3	1990	+0.78
4	2004	+0.77
5	1998	+0.75
6	2015	+0.69
7	2018	+0.68
8	2010	+0.61
	2007	+0.61
10	1994	+0.56

本資料は、2019 年 1～11 月までの観測データをもとに、速報としてまとめたものです。日本の年平均気温の確定値は、2020 年 1 月初めにホームページ（下記 URL）で発表します。また、同ページにて年別・季節別・月別の世界及び日本の平均気温を随時更新・掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/index.html>

